

株式会社クレディセゾン(8253) 2015年度4-9月期決算発表

ファイナンス事業での堅調な収益拡大と
今後の持続的成長に向けた事業基盤の多角化を推進
経常利益 342 億円(前期比 28.7%増)・純利益 230 億円(同 24.3%増)

2015年度4-9月期は、当社が目指す「アジアにおいて他にない新たなファイナンスカンパニー」に向けて、各事業での積極的な営業拡大と将来の収益基盤確立に向けた先行投資を推進しました。

海外事業では、ベトナムにおいて「HD SAISON Finance Company Ltd.」を設立しリテールファイナンス事業を開始したことに加え、インドネシアでは小売事業を展開する PT. Modern Internasional Tbk. とマルチファイナンス事業の開始に向けた「PT. Saison Modern Finance」を設立し、2015年9月、インドネシア金融庁の事業認可を取得しました。

また、「金融×IT (Fintech)」分野でのオープンイノベーションを加速するため、コーポレート・ベンチャーキャピタル「(株) セゾン・ベンチャーズ」を設立し、次世代の金融・決済ソリューションの創造に意欲的なベンチャー企業への投資および協業など一層の連携強化を図っております。

さらにノンバンクとして事業基盤の構築を続ける信用保証、ファイナンス関連の各事業において、多様な資金ニーズに対応した豊富なファイナンス機能の提供を通じた良質な債権残高が堅調に拡大しました。

当連結会計年度のセグメント別業績概況は次の通りです。

1. 営業概況

(1) クレジットサービス事業

新規カード 128 万枚発行、カード会員数 2,527 万人へ顧客基盤を拡大。ショッピングリボルビング残高拡大により、営業収益 1,003 億円(前期比 4.0%増)、営業利益 108 億円(同 11.8%増)。

- ① 提携先の新規出店にあわせた「三井ショッピングパークカード《セゾン》」や「ウォルマートカード セゾン」など提携小売業店舗と一体となった提携カードの会員募集を強化し、新規カード発行 128 万枚(前期比 9.2%増)、カード総会員数は 30 万人増加し 2,527 万人(前期末比 1.2%増)、稼働会員数は 24 万人増加し 1,482 万人(前期末比 1.7%増)となりました。
- ② 提携小売業と連携し、仙台/札幌/千葉/難波など全国各地でのカード利用活性キャンペーンの推進やボーナス払い、リボルビング払いなど多様なお支払い方法の訴求強化により、ショッピングセンター(前期比 13%増)やスーパー(前期比 11%増)でのカード利用が拡大し、ショッピング取扱高 2 兆 912 億円(前期比 5.1%増)、リボルビング残高は 239 億円増加し 3,188 億円(前期末比 8.1%増)となりました。
- ③ スマートフォン用アプリ「セゾン Portal」「UC Portal」では機能向上に努め、アプリダウンロードサイトにおいて高評価をいただいております、96 万ダウンロードを突破。ネットビジネスの基盤となるネット会員数は 61 万人増加し 1,182 万人(前期末比 5.5%増)に拡大しました。また、Eメールを活用したダイレクトメールやカード決済連動型クーポン配信サービスなどの 広告事業収益が前期比 31.7%と大幅に伸長しました。
- ④ 各種法人向けカードの機能向上やサービス拡充を図り、企業における各種決済のキャッシュレス化を強力に推進し、法人カードの取扱高は前期比 13%伸長しました。

(2)リース事業

主力提携販売店との信頼関係強化や新規販売店への営業強化に取り組んだものの、営業収益 68 億円（前期比 3.2%減）、営業利益 26 億円（同 11.6%減）。

貸倒関連費用の抑制に努め、主力提携販売店を中心に販売店ニーズに応じた効果的なキャンペーンの実施や営業強化に取り組みました。

(3)ファイナンス事業

多様な資金ニーズに対応した商品性を強みに提携先との連携強化を図り、事業基盤を拡大。営業収益 127 億円（前期比 19.0%増）、営業利益 70 億円（同 15.6%増）。

- ① 信用保証事業は、事業性資金にも使えるフリーローン保証商品を通じて、地方銀行や信用金庫など地域金融機関との連携強化に努め、新たに 6 先と提携し、提携先数は 388 先（前期差 13 先増）に拡大。保証残高は 2,767 億円（前期末比 5.6%増）となりました。
- ② 長期固定金利住宅ローン「フラット 35」は、カード会員向け優待や代理店営業の強化により、住宅金融支援機構への債権譲渡済み残高は 3,151 億円（前期末比 11.0%増）となりました。
- ③ 「セゾンの資産形成ローン」は、有力な提携先との連携強化により、実行金額 216 億円（前期比 32.9%増）、貸出残高 881 億円（前期末比 30.1%増）と堅調に拡大しました。

(4)不動産関連事業

不動産市況の追い風を受け、営業収益 100 億円（前期比 38.7%増）、営業利益 54 億円（同 81.5%増）。

連結子会社（株）アトリウムにおいては、活況な不動産市場での営業展開を進めるとともに、保有する不動産の価値を高めるための企画・開発にも取り組みました。また、整理事業における大型案件の売却や開発案件が確実に進捗しました。

2. 経常利益・純利益概況

今後の持続的成長に向けた事業基盤の強化により、各事業における収益拡大が進んだ結果、営業収益 1,349 億円（前期比 6.6%増）、営業利益 267 億円（同 18.6%増）、経常利益 342 億円（同 28.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は 230 億円（同 24.3%増）となりました。

(ご参考)2015 年度 4-9 月期 単体業績

(1) 新規カード開拓枚数	:	163 万枚	(前期比 9.2%増)
(2) 新規カード発行枚数	:	128 万枚	(前期比 9.2%増)
(3) カード総会員数	:	2,527 万人	(前期末からの純増数 30 万人)
(4) 稼働会員数	:	1,482 万人	(前期末からの純増数 24 万人)
(5) 稼働率	:	58.7%	(前期末から 0.3%増)
(6) カードショッピング取扱高	:	2 兆 912 億円	(前期比 5.1%増)
(7) カードショッピングリボ残高	:	3,188 億円	(前期末比 8.1%増)
(8) カードキャッシング取扱高	:	1,369 億円	(前期比 2.1%減)
(9) カードキャッシング残高	:	2,192 億円	(前期末比 0.4%増)
(10) 営業収益	:	1,116 億円	(前期比 5.1%増)
(11) 経常利益	:	220 億円	(前期比 0.2%増)
(12) 当期純利益	:	127 億円	(前期比 6.6%減)

3. 通期業績予想の修正

2015年度通期予想につきましては、当第2四半期累計期間までの当社グループの業績および経営環境を踏まえ、5月13日に公表いたしました業績予想を以下の通り修正しております。

<2015年度通期 連結業績予想>

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	268,000	50,000	54,500	35,000	190.60
今回修正予想 (B)	270,000	53,000	60,000	38,500	209.30
増減額 (B-A)	2,000	3,000	5,500	3,500	
増減率 (%)	0.7	6.0	10.1	10.0	
(参考) 前期実績 (平成27年3月期)	259,076	40,161	43,687	12,628	68.77

<2015年度通期 単体業績予想>

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	230,000	43,300	46,000	27,500	149.69
今回修正予想 (B)	231,700	43,700	46,500	34,000	184.76
増減額 (B-A)	1,700	400	500	6,500	
増減率 (%)	0.7	0.9	1.1	23.6	
(参考) 前期実績 (平成27年3月期)	219,336	35,370	38,449	11,315	61.60

※上記に記載した予想数値は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しております。実際の業績は、様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。また、平成29年3月期からは新システムへの移行が予定されており、これに伴う減価償却費が計上されることとなりますので、今後も業績目標が達成できるように取り組んでまいります。

以上